

平成27年 **11月19日(木)**
千代田放送会館ホール
13:00~17:00

衛星による地球観測の現状と今後の展望

主催 地球温暖化観測推進事務局／環境省・気象庁

後援 内閣府、文部科学省、宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所 地球環境研究センター

画像：©JAXA, ©NASA/JAXA, ©JAXA/NIES/MOE, 気象庁

**参加
要事前登録
無料**

気候変動を予測し、人間社会や生態系への気候変動の影響を評価する上で、地球環境の実態を把握することは非常に重要であり、そのためには地球観測データの充実が必要不可欠です。特に衛星による観測は、全球規模での分布を短い時間間隔で長期間測定することが可能であり、詳細な変動の状況を把握するのに極めて有効です。また、近年の技術革新により温室効果ガス、植生などの様々な要素の観測が可能になってきており、従来の観測と組み合わせることにより、地球温暖化をはじめとする地球環境研究が大きく進展することが期待されています。

今回のワークショップでは、気候変動・水循環変動・生態系等の地球規模の監視・解析・予測に貢献する我が国の地球観測衛星の現状と将来展望について紹介します。

プログラム

13:00 ~ 13:10	開会挨拶	気象庁
13:10 ~ 14:00	基調講演	衛星地球観測の現状と課題 中島 映至 (宇宙航空研究開発機構)
14:00 ~ 16:00	一般講演	
14:00 ~ 14:35	地球環境観測衛星としての「ひまわり8号」	操野 年之 (気象庁)
14:35 ~ 15:10	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」の観測の現状と今後 (GOSAT及びGOSAT-2)	横田 達也 (国立環境研究所)
15:10 ~ 15:25	(休憩)	
15:25 ~ 16:00	GCOM-W観測データによる大気・海洋変動のモニタリングメカニズム解明と社会貢献	江淵 直人 (北海道大学)
16:00 ~ 17:00	総合討論	地球観測における衛星観測の役割
16:00 ~ 16:15	コメント1	GPM、GCOM-C等による水循環・気候変動のモニタリングと社会課題への貢献 石田 中 (宇宙航空研究開発機構)
16:15 ~ 16:30	コメント2	高解像度衛星観測の展望 岩崎 晃 (東京大学)
16:30 ~ 17:00	討論	
17:00	閉会	

日時・場所

平成27年11月19日(木) 13:00~17:00 (受付開始 12:15~)
千代田放送会館ホール 東京都千代田区紀尾井町1-1 TEL: 03-3238-7401
・地下鉄赤坂見附駅(銀座線・丸ノ内線) 出口Dから徒歩約9分
・地下鉄永田町駅(南北線・有楽町線・半蔵門線) 出口9a 9b 5から徒歩約2~8分
・地下鉄麹町駅(有楽町線) 出口1から徒歩約5分

参加申込

事前登録制です。下記URLよりお申し込みください。

<http://occco.nies.go.jp/151119ws/index.html>

※定員200名 定員になり次第登録を締め切ります。

お問合せ先

地球温暖化観測推進事務局／環境省・気象庁(OCCCO)

<http://occco.nies.go.jp/> e-mail: occco-ws15@nies.go.jp

TEL: 029-850-2980 FAX: 029-858-2645

千代田放送会館へのアクセスマップ

